The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	スーフィズムがアゼルバイジャンの建築的アイデンティティに与える影響
Author(s)	タルヴェルディエヴァ, ラマン
Citation	デザイン理論. 2025, 85, p. 74-75
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100281
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

スーフィズムがアゼルバイジャンの建築的アイデンティティに与える影響

タルヴェルディエヴァ・ラマン　島根大学大学院在学

はじめに

スーフィズムは，内面の浄化，精神修養，そして献身を通して神を直接かつ個人的に体験することを求める，イスラム教の神秘主義的信仰体系である。スーフィズムは，イスラム世界全体において重要な思想的影響を与えたが，特にアゼルバイジャンにおいては，その影響が建築にも広く及んでいる。本研究では，アゼルバイジャンの霊廟建築がスーフィズムの影響をどのように受けたのかを明らかにするため，地域別の建築様式の違いを比較しながら，霊廟の美的特徴や象徴的要素に焦点を当てている。アゼルバイジャンの霊廟建築は，宗教的・精神的価値を表現し，スーフィズムの教えを視覚的に具現化する役割を果たしてきた。特に，霊廟はスーフィズムの思想を体現する場所としての役割を担い，精神的修行や瞑想の場として機能していた。

研究の目的

本研究の目的は，アゼルバイジャンにおける霊廟建築がスーフィズムの思想や精神的価値観をどのように反映しているかを明らかにすることである。特に，スーフィズムが建築様式にどのような影響を与えたのかを調査し，その違いを地域ごとに比較分析した。また，霊廟建築における精神的および美的な原理を解明することも本研究の重要な課題である。

研究方法

スーフィズムとアゼルバイジャンの建築史に関する既存の文献を調査し，基礎的な知識を収集した。文献調査を通じて，スーフィズムの基本的な思想や，アゼルバイジャンの霊廟建築の歴史的背景を理解した。

アゼルバイジャン各地の霊廟建築を選定し，地域別にその設計や装飾，象徴的要素の違いを分析した。特に，ナクチヴァン，アラン，アブシェロンの3つの建築学校に分類される霊廟を比較し，それぞれがどのようにスーフィズムの思想を反映しているかを明らかにした。

アゼルバイジャンの主要な霊廟を訪れ，現地調査を行った。これにより，建築物の物理的特徴や装飾的要素を詳しく観察し，スーフィズムの思想がどのように建築に反映されているかを確認した。

スーフィズムとアゼルバイジャンの建築様式の関係

スーフィズムの思想は，建築における象徴的要素として具現化されている。スーフィズムが追求する精神的浄化や神との直接的な関係は，霊廟建築の設計においても反映されている。例えば，光と影の対比や幾何学模様の使用は，神の存在や宇宙の秩序を表現するための手法として用いられた。また，霊廟の装飾に見られるカリグラフィーやアラベスク模様は，スーフィズムの精神的価値観を象徴する重要な要素として機能している。

研究結果

スーフィズムは，イスラム教の神秘主義的思想として，アゼルバイジャンの建築にも影響を与えた。特に霊廟建築は，スーフィズムの精神的価値

観を体現する場として，建築家たちがその思想を反映させた重要な構造物である。

アゼルバイジャンの霊廟建築は，ナクチヴァン，アラン，アブシェロンの３つの地域で異なる建築様式を持っている。ナクチヴァンとアランの霊廟建築は，複雑な幾何学模様や装飾が多く見られるのに対し，アブシェロンの霊廟建築は，よりシンプルで精神的な純粋さを強調するデザインが特徴である。

霊廟建築におけるスーフィズムの影響は，建築家が精神的なメッセージを後世に伝えるための手段として活用された。霊廟建築は，単なる建築物ではなく，スーフィズムの思想を視覚的に表現する重要な役割を果たしている。

結論

本研究を通して，スーフィズムとアゼルバイジャンの霊廟建築の関係は非常に密接であることが明らかになった。スーフィズムは単なる宗教的な思想ではなく，アゼルバイジャンの文化や建築に深く根付いた精神的な枠組みを提供している。特に霊廟建築は，スーフィズムの象徴的な価値観を反映するための重要な手段であり，建築家たちはそのデザインを通じてスーフィズムの思想を視覚的に表現しようとしていた。

本研究の結果，スーフィズムの精神的浄化，神との一体感，献身という理念が，霊廟の設計，装飾，空間構成にどのように具現化されているかを詳細に明らかにした。例えば，霊廟における光と影のコントラストや幾何学模様の配置は，スーフィズムの哲学的概念を象徴的に表現する要素として機能しており，また，建築物内外に刻まれたカリグラフィーやアラベスク模様も，神秘主義的なメッセージを伝えるために使用されていた。

さらに，地域ごとの霊廟建築の比較分析を通じて，アゼルバイジャンの３つの建築学校（ナクチヴァン，アラン，アブシェロン）の建築スタイルには，スーフィズムの思想がそれぞれ異なる形で反映されていることが分かった。ナクチヴァンとアランの建築家たちは，複雑で象徴的な装飾やデザインを通じてスーフィズムのメッセージを伝えようとしたのに対し，アブシェロンの建築家たちは，よりシンプルで純粋な形でその精神的価値を表現しようとしたことが確認された。

スーフィの人々が実践していたシンプルさ，献身，禁欲といった生活様式は，霊廟建築のデザインにも反映されており，建築の象徴的要素や空間構成にその精神性が見て取れる。また，スーフィズムの影響は建築以外の詩，音楽，舞踊といった芸術形式にも広がっており，芸術表現を通じてスーフィの霊的テーマが具現化されている。

さらに，スーフィ哲学が現代建築にも大きな影響を与えていることを明らかにする必要がある。調和，一体感，バランスといった理念は，現代建築家によって有機的な形で取り入れられ，光や霊的な象徴を活用することで，瞑想や内省の場を創造していると推測されるからである。

参考文献

Burckhardt, Titus. Art of Islam: Language and Meaning. London: World of Islam Festival Publishing Company, 1976.

Frishman, Martin, and Hasan-Uddin Khan, eds. The Mosque: History, Architectural Development & Regional Diversity. London: Thames & Hudson, 1994.

Blair, Sheila, and Jonathan Bloom. The Art and Architecture of Islam: 1250–1800. New Haven: Yale University Press, 1995.

Necipoğlu, Gülru. The Topkapi Scroll: Geometry and Ornament in Islamic Architecture. Los Angeles: Getty Center for the History of Art and the Humanities, 1995.